



埼玉県さいたま市岩槻区に本拠を置く(株)三慶商事(趙顕洙社長)は、県内を中心にパチンコ店「アリーナ」を展開する若さあふれた会社です。経営理念に掲げる

のは「共生」。地元

埼玉にこだわり、

この地とともに生きてゆくことを大切にしています。

地元密着型の社会貢献活動としてグループ

が力を入れているのが、「さいたまタウン新聞」の活動です。

各店から寄せられた情報に基づき、地域のレ스토랑、居酒屋さん、ケーキ屋さん、コーヒーショップ、床屋さん、洋服屋さん、雑貨屋さんなどを独自取材し、各店の顧客に紹介し

ます。様々なお得情報も合わせて提供されますから、来店されたお客様も大喜び



タウン新聞活動はお客様からも地元からも大好評

紹介されたお店のほうも、無料で宣伝してもらえらるのだから、こんなありがたいことはありません。こうした地域活性化が進めば、グループにとってもよい影響が期待できます。

ただ、ここまで来るには、いろいろ大変だったようです。「地元のことと金を惜しむな」という社長の号令で、地域への支援活動を行うことになりました。そこで、まず、各店

から2人ずつが集まり、活動をする「ENJOY」と呼ばれる社内チームを作りました。何度も協議を重ねながら支援先を選び、最初は手書きのポスターで、お店の紹介をはじめ

めました。でも、ただ単なる地域の紹介だけでは面白くありません。そこで、各店も月1回以上地元支援のイベントを行うことが決まりました。

「地場からいただき、地場に返す」をスローガンにはじめたイベントです。地元の名物お団子、シユウマイ、

岩槻ネギ焼そばなどの実演販売。これが大好評で、それを紹介するタウン新聞への注目度もうなぎのぼり。支援先の地元の店も本気になって、さまざまなサービス企画を持ち込むようになり、タウン新聞は今やアリーナグループの名物といわれるようになりました。その一方で、各店で週1回必ず行われる店舗周辺地域の清掃活動など地道な活動も忘れてはいません。

### 東南アジアの子供たちへ

ボランティア活動も盛んです。「個々のパフォーマンス(人間力)の向上」が、経営理念である「共生」の重要な内容の一つであると考えらるからです。たとえば、桶川市の児童養護施設「いずみの学園」のお祭り行事の手伝い、岩槻区の障害者支援施設「どうかん」のお祭り行事の手伝い、「彩の国いきいきフェスティバル」の手伝いなど、地元密着型のボランティア活動が並びます。

そうした中から、広く海外や社会一般に対する支援活動も生まれてき

ました。例えば、靴やランドセルを東南アジアの子どもたちに送る活動です。地元の古紙回収業者さんの発案で始まったこの運動に、アリーナグループも参加。大量の子ども靴、ランドセルを集めました。「僕が使っていた靴ですが、恵まれない子どもたちに送ってください」(小6)。各店が集めた靴やランドセルには、地元の子どもたちの可愛い手紙も添えられていて、各店の掲示板などで紹介されています。

ボランティア活動に参加した社員からは、「はじめは、段取りが悪くていろいろ大変だったけど、後で感謝の手紙をいただいて、とてもうれしかった」(いずみの学園のお祭り手伝い)など、感動の声が寄せられています。活動が社員一人ひとりの人間的な成長をうながすことにも通じているようです。今年はこちらの活動に、東日本大震災被災地でのボランティア活動や義援金募集も加わりました。地元支援、地域貢献、それから幅広い社会貢献へと、身近な活動が、しつかりと成長を続けています。



(上から)いずみの学園、どうかんまつり、いきいきフェスティバル